

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を実施しました (2022/10/29)

テーマ：土砂災害の基礎と対応方法、水害の傾向と対策、地震と火山噴火の起こり方、過去の建物地震被害と大型振動実験の紹介

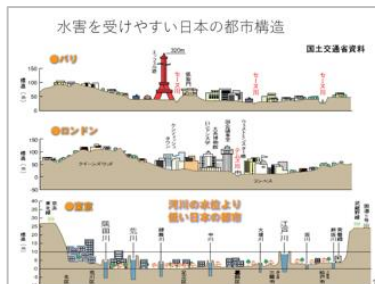
会場：web（ホスト：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市））

2022年10月29日（土）、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論をオンラインで実施し、プログラム履修生13名（医療従事者、消防職員など）、オープン参加者3名の計16名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が全体進行、森口周二准教授（計算安全工学研究分野）、橋本雅和助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野）、榎田竜太准教授（地震工学研究分野）が講師を務めました。

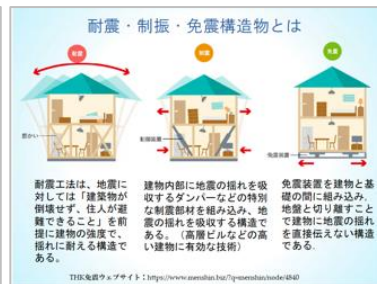
ふだん病院や消防署、市町村役場などに勤務しているプログラム履修生は土砂災害、台風・洪水などの水工学、地震火山噴火、建物耐震メカニズムなど、災害の基本となる学術的な知識に触れる機会はほとんどありません。学際的に災害を学び、多角的視野から災害にアプローチできる保健医療人材の育成が本プログラムの特徴の一つです。森口准教授の「EMISと同じくらい気象庁サイト『キキクル』にも精通すること」、橋本助教の「中小規模の災害を経験しなくなったことが逆に災害への関わりを遠ざけ被害を大きくした」などのコメントに、履修生らは他分野との連携の重要性や、防災ハード発展の弊害についても学ぶことができました。



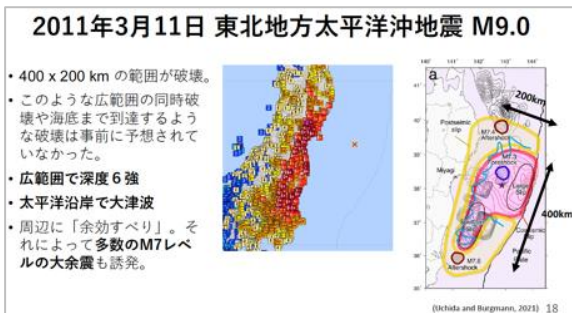
土砂災害の基礎と対応方法
(森口准教授)



水害の傾向と対策
(橋本助教)



過去の建物地震被害と大型振動実験の紹介
(榎田准教授)



地震と火山噴火の起こり方
(福島准教授)



Webで受講する履修生ら